

骨折治療への挑戦。



1月末、中春別のとある乾乳舎にて、乾乳牛の開放性(傷口が開いている)骨折が発生！！

治癒は不可能であるとしても、仔牛だけなんとか取り出せないかと、ダメもとで治療をさせて頂きました。しかし、分娩予定日は2カ月先。それまで感染と長期間の起立不能状態による障害との闘いになります。

結果的に、治療後1週間と少しで親牛が骨折とは別の理由で死亡してしまったため、この挑戦は初期段階で終了してしまいましたが、多くのことを学ばせてくれたこの牛に敬意を込めて、記録をM情報に掲載させていただきます。



<経過> 大きな引き戸の金具に左後肢を挟み、骨折。骨折時に出血はほぼなかったが、受傷後に暴れて骨端が筋肉や皮膚を破壊し多量出血してしまった模様。

<治療計画>

予定日1カ月以内まで持ちこたえれば帝王切開を、元気なまま2週間以内までもてば分娩誘起を、牛の様態をみながら実施する予定でした。

ギブス固定を考えるも、ほとんど皮膚でしか繋がっていないのと、折れた骨の周囲の汚染が重度のため切断を決定。感染を抑えながら起立不能状態でどこまでできるかは未知。

汚染のない状態で幹部を保護するため、骨ごと切断。→
(除角や切胎用のワイヤー)



<結果>

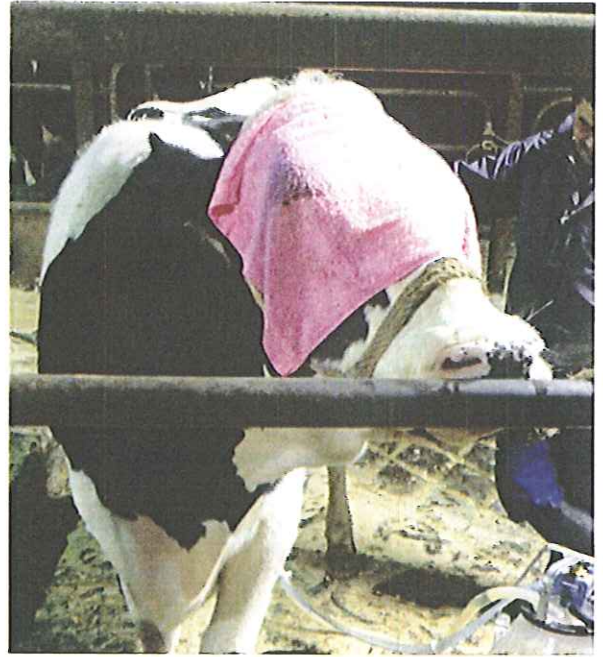
1週間以上経過しても患部の感染等は一切なく、暴れても外れない包帯法が見つかったところで死亡してしまいました。立てずとも乾乳舎を這い回り、元気に餌場まで行って食事している姿は頼もしく、希望を持った矢先で、非常に残念でした。

諦めても仕方がない症例について、手を尽くしたいという提案とともに挑戦してくれたHさんと、力及ばぬ僕に多くの学びをくれたこの牛に心から感謝します。

☆濡れタオル目隠し戦法☆

先日、診療中に農家さんが牛の顔に濡れタオルを乗せて搾っているのを見つけました。分娩房で廃棄乳を搾っていたのですが、湯気の立つタオルをおとなしく乗せている様子が可愛くてたまらず撮影してしまいました。

なぜタオルを乗せているのかと尋ねると、「暴れる牛がおとなしくなるから」と。とくに初産の乱暴者が途端にじっと搾られるようになることもあるんだとか。これって酪農家の常識なんではないでしょうか？すべての牛に効き目があるわけではないようですが、後日ために四胃変位の手術の際にも使ってみました。人が触ろうと近づくだけで大暴れする牛に、ペタリ。モクシに挟み込んでしっかり目隠ししてやれば、効果テキメン！！手術終了までピクリともせず、実にスムーズ！！手術中に試させてもらった農家さんも、この「濡れタオル目隠し戦法」は知っていました。



最近のおもちゃはスゴイ！！

非常にクオリティの高いガチャポンを発見しました！！（北海道でも「ガチャポン」というのでしょうか？）

干支の動物たちの精巧な頭蓋骨の模型のストラップです。いまのところ関東の大きな電気屋さんなどにあるという情報しかなく、もちろん僕の行ける範囲では売っていません。しかし、牛の頭蓋骨ストラップがどうしても欲しく、関東の友達に駄々をこねて送ってもらいました！！

やっぱり、牛が一番かっこいいですね！！

